

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	30
学校名	富山県立志貴野高等学校

学校の現状と課題	本校生徒の成育歴、学習歴、家庭環境は多様で、いろいろな困難や事情を抱えることから様々な経験が乏しい生徒が少なくない。生徒一人一人がこれからの社会をたくましく生き抜き自己実現を図るためにも、実践的・体験的な活動や地域と連携した活動を通して経験を増やす中で、生徒自身が自己理解を深め、自分自身の課題解決に主体的に取り組む力を育みたい。	
テーマ(特色)	実践的・体験的な活動を通じた主体的な課題解決力の育成と社会的自立を促す教育の推進	
設定した「テーマ」の達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成【保健・教育相談部】 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が適切な知識を獲得し、主体的に考え生活を改善するための研修会やホームルーム活動、委員会活動等の実施 地域の生活産業理解を通じた生活や産業の担い手としての意識向上【生活文化科】 <ul style="list-style-type: none"> 生活産業企業に携わるスペシャリストから学ぶ体験講座、意見交換等の実施 職業体験活動等を通じた進路意識の高揚【夜間部】 <ul style="list-style-type: none"> テーマに基づく事前学習や地域資源と連携した職業体験講座の実施 	
実施内容 (具体的に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成と探究【保健・教育相談部】 <ol style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会による健康教育テーマ設定、調査・研究活動 研究テーマを「志貴野高校生の心と体」とし、全校生徒対象のアンケートを実施 心身の健康に関する研修会の実施 産婦人科医 鮫島梓氏を講師に迎え、「今、知ってほしい性の話」をテーマに研修会を実施 (1)(2)の内容のまとめと発表、全校生徒への生活改善策の提案 文化祭での研究成果のポスター掲示、産婦人科医 鮫島梓氏による相談コーナーの設置 課題解決に取り組むホームルーム活動の提案、健康課題解決に係る継続的な取組への働きかけ HRを活用した「ストレス対処法」「よりよいコミュニケーション」に関する研修会の提案と実施 地域の生活産業理解と探究を通じた生活や産業の担い手としての意識向上【生活文化科】 <ol style="list-style-type: none"> スペシャリストに学ぶ1～暮らしを彩る生活産業～(デザインや縫製について学ぶ職場見学等) 福光美術館における本校作品を含むキルト展訪問及び株式会社ミヤモリの職場見学 スペシャリストに学ぶ2(外部講師による特別授業) 振付師・ダンサーの田畑真希氏による身体ほぐしのワークショップや街頭で表現力向上のためのワークショップを実施。 職業体験活動等を通じた進路意識の高揚と探究【夜間部】 <ol style="list-style-type: none"> 事前学習(福祉について基本的な考え方を学び、身近な生活とのつながりを理解する等) 特定非営利法人ふらっと 宮袋季美氏、愛宕秀晃氏による講話・車いす体験 事後学習(体験を振り返り、解決策などを考える) 	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<ol style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成と探究【保健・教育相談部】 <ul style="list-style-type: none"> 生徒保健員会では各係が協力して調査・研究活動に取り組むことができ、自分たちの心と体の特徴について、生徒自ら主体的に理解を深めることができた。 産婦人科医より話を聴くことによって、思春期・青年期の心身の変化の特徴や、自他を尊重するコミュニケーションのあり方等について、生徒自ら考える契機となった。 いかにして生徒に伝わるかを研究し、文化祭では、生徒保健委員会の研究や講演会の内容をポスター等にまとめて掲示したり、産婦人科医による相談コーナーを設置したりすることで、悩みを相談し、心身の健康を保持増進するための行動を啓発することができた。 HRの時間に心の健康に関する研修会(講師:スクールカウンセラー)を実施することで、不安をやわらげる方法や、信頼を育むコミュニケーションのあり方について、生徒自らが主体的に学び、体得する機会を得た。 地域の生活産業理解と探究を通じた生活や産業の担い手としての意識向上【生活文化科】 <ul style="list-style-type: none"> 訪問した企業は本校の体操服を製造しており、地域の産業について身近に感じ、また体験的に理解できた。 職場見学や特別授業等を通して、地域の産業の担い手としての意識が向上し、進路学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 美術館で強い影響を受けたキルト作家と同じテキスタイル・デザイナーの布地を指定して使用することや探究することにより、キルト製作に対してこれまでない完成度を求めて意欲的かつ集中的に取り組むことができた。 特別授業では、自作の衣装を着て伸びやかに街を歩き、自己表現力を養った。 職業体験活動等を通じた進路意識の高揚と探究【夜間部】 <ul style="list-style-type: none"> 事前学習において福祉の基本的な考え方を学び、身近な生活とのつながりについて理解を深めた。 講話を通して、障害は目に見えるものだけではなく多様な形があることを学んだ。 車いすの基本的な操作方法を学び実践するとともに、実際に車いすに乗る体験を通して、立っている人との目線の高さの違いに気づき、相手の立場に立つことの重要性を学んだ。 多様な進路選択の中から、自己の意思と進路を責任で決定できる力を養うことができた。 	
対象者(学年・人数など)	全校生徒【昼間単位制Ⅰ部123名、Ⅱ部60名(うち生活文化科48名)、夜間単位制20名】	
実施実績	4月	
	5月	【保健・教育相談部】心の健康に関するホームルーム
	6月	【保健・教育相談部】アンケートの作成、実施 【生活文化科】職場見学等
	7月	【保健・教育相談部】アンケートの集計、考察
	8月	
	9月	【保健・教育相談部】思春期・青年期の心と体に関する研修会 【生活文化科】外部講師による特別授業
	10月	【保健・教育相談部】アンケートのまとめと研究、考察、文化祭でのポスター掲示、外部講師による相談コーナーの設置 【生活文化科】文化祭での発表(スペシャリストから学んだことを生かした作品展示)
	11月	
	12月	
	1月	
	2月	【夜間部】職業体験講座(事前学習、事後学習含む) 【保健・教育相談部】心の健康に関するホームルーム
	3月	